

シリーズ 石見銀山④

大久保間歩坑内で明治期の「ドッグ スパイク」を確認！

国内外の技術遺産について実証的に調査研究を進めている産業考古学会(大野武弘会長)の2018年度全国大会が、昨年11月に大田市で開催されました。

研究発表会とともに行われた石見銀山遺跡の現地見学会において鉄道遺産が専門の大島一朗、同学会理事によって、大久保間歩坑内の軌道跡に、明治期の「ドッグスパイク」(犬釘)が現存していることが確認されました。

レールを枕木に固定するために用いられる専用の釘は、「犬釘」と呼ばれます。英語でも「Dog Spikel」といわれるこの釘は、初期のもののが、レールを押さえる部位が犬の鼻に、引き抜くための突起が犬の耳によく似ていたことからその名となったといわれています。

大島理事によれば、「明治の初め頃に英国や欧州から犬の頭の形のものが輸入され使われていたが、米国が発祥の亀の甲の形をした丸っぽい釘が明治29年(1896)以降に本格的に導入され、明治42年(1909)以降には官設鉄道で標準化されて、亀の甲の形が一般的な犬釘となった」との経緯があるそうです。また、坑道などの国内の鉱山軌道で犬の頭の形をした Dog Spikel が確認された例としては、「廃坑で坑道の犬釘が断片的に発見されているものの、その状態は良くないものばかり」とのことです。

今回、大久保間歩で発見された犬釘は、上から見て頭部が凸型の文字通りの犬の頭の形をし

大田市は、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神に基づき、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の保全と活用をすすめています。

ており、現地に残る枕木に打たれたままの状態で見つかりました。坑道で、現地にそのまま残されている例としては「国内唯一で最古の例」であると大島理事がその学術的価値を高く評価しています。

なお、石見銀山資料館の藤原雄高学芸員が、明治21年(1888)に「大久保坑ハ、五月ヨリ取明修補ヲ爲シ、八月中ニ至テ千有餘尺車道ヲ布設シ、鋭意急管往昔ノ採鑛場ニ達センコトヲ勉メリ」との記録が残ることを明らかにしており、当時、採掘していた藤田組によって同年8月中旬までに軌道が敷設されたことが推定されます。

それ以上の詳細な記録が確認されていないため、大久保間歩坑内に現存する犬釘が明治21年(1888)当時のものと断定はできませんが、少なくとも本格的な採掘が停止した明治29年(1896)以前であると考えられます。

興味は尽きませんが、いづれにしても世界遺産石見銀山遺跡の学術的な価値を高める発見の一つとなりました。



▲発見場所

▲発見された犬釘 写真提供:大島一朗

【お問い合わせ先】

大田市役所石見銀山課 ☎0854-83-8132

～ふるさと 波根の「今」をお伝えします～

「広報 波祢」ご希望の方に無料でお送りします！

波根まちづくりセンターでは隔月で広報誌「広報 波祢」を発行。波根町全戸に配布し、行事や身近な情報を、写真を交えてご紹介しています。この度、市外在住の方々にも波根の「今」をお伝えできればと思い、読者を募ることといたしました。

写真や名前の表記等、住民を主役とした身近な紙面づくりを心がけており、紙面をひらくと波根の元気な姿や「今」に触れていただけます。

希望される方は下記までお電話でお申し込みください。

【対象者】波根町出身あるいは縁のある方で市外在住の人

【お申し込み・お問い合わせ先】波根まちづくりセンター(☎0854-85-8625)

